

# 日本語と韓国語の漢語動詞

—受動の形態を中心として—

辛 碩 基

## 0. はじめに

日本語と韓国語にはいわゆる漢語動詞 (Sino-Japanese Verb、Sino-Korean Verb) と呼ばれている動詞の類がある。例えば次のような例が挙げられる。

破壊-する・変化-する (日本語)

破壊-hata・変化-hata (韓国語)

これらの動詞は一つの漢語からなる名詞 (破壊・変化など) に日本語の場合は「する」をつけることによって一つの動詞を形成する。韓国語の場合も日本語と同じく漢語からなる名詞に「hata」をつけて一つの動詞を形成する。両言語においてこのような動詞の生成は非常に規則的かつ生産的であり広く使われている。

以下、この小論では上記のような両言語における漢語動詞を対照し、日本語と韓国語の違った特徴を明らかにすることを目的とする。実際の対照に当たっては漢語動詞につく受動の形態を主な考察の対象にしたい。

## 1. 漢語動詞につく受動の形態

日本語には直接受動文・間接受動文があるのはよく知られているが、韓国語には日本語の直接受動に当たる構文はあるが、間接受動のような構文はない。つまり、韓国語では他動詞は受動の形態<sup>1)</sup>と結合し受動文を生成するのに対して、一般的に自動詞は受動の形態と結合し受動文に転換することはできないのである。しかし韓国語の漢語動詞の場合は、自動詞であるにもかかわらず受動の形態を伴う場合がある。

(1) J. 人類が地球環境を破壊する。 (他動詞)

K. 人類-ka 地球環境-il 破壊 hata.

J'. 地球環境が人類によって破壊される。

K'. 地球環境-i 人類 e iihē 破壊 tφta.

(2) J. 彼は健康を回復した。

K. kī-nīn 健康-il 回復 hajəs'ta.

J'. 健康が回復した。

K'. 健康-i 回復 tφəs'ta.

上記の他動詞による例文から、日本語の他動詞につく能動・受動の形態「する・され

る」は韓国語の能動・受動の形態「hata・tϕta」にそれぞれ規則的に対応していることが分かる。例外として例文(2)の「回復する」などは一つの形態-日本語の「する」-に韓国語の「hata・tϕta」が対応しているが、一般に両用動詞と呼ばれているこれらの動詞はその数が少ないことからこのような動詞を例外として除くと他動詞の場合、日本語の「する・される」形は韓国語の「hata・tϕta」形にそれぞれ対応しているといえる。

このような他動詞の対応関係に対して自動詞の場合、以下の例文のように日本語の自動詞の「する」形が韓国語の自動詞の「hata・tϕta」形にそれぞれ対応していることを見せている。

(3) J.彼は病院に入院した。 (自動詞)

K. kī-nin 病院-e 入院 hajəs'ta.

(4) J.豪華客船が太平洋で沈没した。

K. 豪華客船-i 太平洋 esə 沈没 hajəs'ta/沈没 tϕəs'ta.

(5) J.不正事件が発覚した。

K. 不正事件-i \* 発覚 hajəs'ta/発覚 tϕəs'ta.

(6) J.山田の就職が内定した。

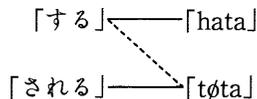
K. 山田 ii 就職-i \* 内定 hajəs'ta/内定 tϕəs'ta.

例文(3)の場合、日本語の「入院-する」が韓国語の「入院-hata」だけに対応しているのを見せている。これは上記の他動詞の対応関係から考えると当然のことであるが、例文(4-6)の場合は例文(3)とは違った対応関係を見せている。

例文(4)のように「沈没する」が韓国語の「沈没 hata」の他に「沈没 tϕta」のような受動の形態にも対応している。さらに例文(5、6)のように「発覚する」、「内定する」に対応しているのは「発覚 tϕta」、「内定 tϕta」のような受動の形態「tϕta」だけなのである。つまり日本語の自動詞の「する」形に対応しているのは韓国語の自動詞の「hata」形だけでなく、他動詞につく受動の形態「tϕta」形も使われていることがわかる。

これまでのことを一応整理して見ると次のような対応関係を示している。

〔図1〕



実際どういう漢語動詞が【図1】のような対応関係を見せているかを整理してみると次のようになる(自動詞のみ)。

I. 「する」-「hata/\* tϕta」: ①帰国、結婚、亡命、協力、入院、進出、電話など

②老化、急変、激変、暴騰、流行、衰退、変化など

II. 「する」-「hata/tϕta」: 減少、沈没、発展、上昇、発足、成立、蒸発、

台頭、誕生、緊張、脱落など

III. 「する」 - 「\* hata/tϕta」: 決裂、座礁、転覆、矛盾、孤立、発覚、判明、麻痺、感染、内定、埋没など

この中で日本語の「する」形と韓国語の「tϕta」形のみが対応関係を見せているグループIIIに属する動詞の数はグループIとIIに比べてその数は少ない。グループIを①と②で分けてあることについては後述する。

ここで問題になるのは日本語の自動詞の「する」に対応するグループIIに属する動詞につく「hata/tϕta」形とグループIIIに属する動詞につく「tϕta」形であるが、以下これらのことについて先行研究を踏まえながら考察したい。

## 2. 先行研究

生越(1982)では上記のようなことについて、韓国語の「hata」・「tϕta」形の区別は主語がその動作の動作主であるかいなかによるものであると述べ、次のような例文をあげて説明している。

(7) a. 計画が挫折した。

b. 計画-i { \* 挫折 ha-jəs'ta / 挫折 tϕ-əs'ta}.

(8) a. 彼はどんな苦しい時でも挫折しなかった。

b. kī salam-in ət'ən 困境-e c<sup>h</sup>əhesəto { 挫折 ha-či / ? 挫折 tϕ-či } anh-as'ta.

例文(7)の「計画」は動作主でないから、つまり主語自らその動作を行うことが出来ないから「tϕta」形が使われるのに対して、例文(8)の「彼」は動作主と見なされるから「hata」形が使われるのであると主張している。

しかし次の例文のように主格に立つ名詞が動作主でなくても「hata」形が使われている、上記の仮定では説明できないような例文が存在している。

(9) 最近 ǰ'albīn məri 型-i 流行 hakois'ta.

最近 短い髪型-ガ 流行している。

(10) mul-i 液体 esə 気体 ro 変化 hata.

水-ガ 液体から 気体に 変化する。

(11) čakīn 工場-i 大企業 iro 発展 hata.

小さい工場-ガ大企業に 発展する。

(12) 最近 s'ireki 処理問題-ka 社会問題化 hajəs'ta.

最近 ゴミ処理問題-ガ 社会問題化した。

例文(9-12)を見てもわかるように、主格に立つ名詞が動作主でなくても「hata」形が使われている。ただ単に主格に立つ名詞が動作主であるかいなかによっては「hata・tϕta」の区別はできないものといえる。

Jacobsen(1992)は上記の生越の論を引き継ぎ意味的特徴の考察から、韓国語の「hata・tϕta」の区別は Intentional vs Non-intentional subject (意志的主語か非意志的主語)に関係があり非意志的主語の自動詞文では外部の動作主 (Agent) の有無に対する形式的区別はないと述べている。

このような Jacobsen の仮定も生越の主張と同じ内容であり、上記のような例文を説明することはできない。つまり、上記の例文の主格に立つ名詞(「髪型」、「水」、「工場」、「問題」)が意志的主語であるとは考えられないからである。

韓国語の「hata・t $\phi$ ta」の区別にこのような単に主格に立つ名詞が動作主であるかいないかというような制約あるいは意志的主語か非意志的主語かの制約は上記のような例文の説明にはならないが、両氏の主張はある程度問題解決に関係している。

以下これらのことを踏まえながら考察に入りたい。

### 3. 考察

日本語の他動詞の「する・される」形は韓国語の「hata・t $\phi$ ta」形に規則的に対応していることから自動詞の場合も「する」-「hata」形の対応関係が予想されるがこれまでの例文のように「hata」形の外にも「t $\phi$ ta」形が対応していることと、さらにこれらの問題に関する先行研究の主張では説明できない文も存在することが分かった。

以下、問題解決のために考えられる要素として、動詞の表す事態とその動詞のアスペクトの意味特性の二つを想定し先行研究を補う形で論を進めたい。

#### 3-1. 動詞の表す事態

例えば次の例文のように、漢語動詞につく形態はすべて「する」形で同じであるが、各々の主格に立つ名詞の意図性 (Intention) に関しては異なっている。

- (18) 彼は昨日徹夜で勉強した。
- (19) エンジントラブルの飛行機が着陸しようとしている。
- (20) 彼はアフリカでマラリヤに感染した。
- (21) ウルグアイラウンド交渉が決裂してしまった。

つまり、例文 (18, 19) の「彼」、「飛行機」は意図を持った動作主の役割を果たしているのに対して、例文 (20, 21) の「彼」、「交渉」は動作主ではなく意味的には対象物の役割を果たしているのである。

上記の例文 (18—21) における名詞句の意図性の違いは、例文 (18, 19) が自動詞構文であるのに対して、例文 (20, 21) が自発構文であることによるものである。

自動詞構文と自発構文はしばしば同じ統語構造と意味を表すものと考えられているが (寺村1982)、ここでいう漢語動詞による自動詞構文と自発構文の違いは、意味的に自動詞構文の主格に立つ名詞が、述語の表す動作を行える意図を持っている動作主 (agent) の役割を果たすのに対して、自発構文の場合は意味的に述語の表す動作を行える意図性を持っていない対象物 (object) の役割を果たしていることである。このような両構文の違いは、統語的に動詞の中に助詞「を」が挿入できるかできないかでも確認され得る。

- (22) 彼は昨日徹夜で勉強 (を) した。
- (23) エンジントラブルの飛行機が無事に着陸 (を) した。
- (24) 彼はアフリカでマラリヤに感染 (\* を) した。

(25) ウルグアイラウンド交渉が決裂 (\* を) してしまった。

自動詞構文である(22、23)のように、主語が意図性を持っていれば、動詞の中に「を」が入れられるのに対して、主語が意図性を持っていない自発構文である(24、25)の場合はそれが不可能である。

以上のことから日本語の自動詞の場合、動詞の形態は同じ「する」という形であってもその表す事態には「自動的」なもの「自発的」なものが存在していると見受けられる。

このような日本語の自動詞に対して韓国語の自動詞-2節であげた三つの分類-がどのような対応関係を見せているのか以下考察する。

### 3-2. グループI: 「する」- 「hata / \* tɕta」の対応

このグループIには二つ(①、②)の小グループに分けられるのは、上記の日本語の説明のように、動詞の表す事態が自動詞的なものか自発的なものかによってである。

まずグループ①に属する動詞の例文として以下のものがあげられる。

(26) J.彼はアメリカから昨日帰国(を)した。

K. kɪ-nɪn 米国 esə əče 帰国 (il) hajas'ta.

(27) J.この件に関して大学は警察に協力(を)することが出来ないと言っている。

K. i 件 e 関 he 大学-in 警察 e 協力 (il) halsuəptako malhakois'ta.

(28) J.花子は太郎と結婚(を)した。

K. 花子-nɪn 太郎 wa 結婚 (il) hajas'ta.

グループ①の動詞の場合、日本語と同じく主格に立つ名詞はすべて意図を持っており、統語的にも助詞「il, il (を)」を動詞の中に入れられることから<sup>2)</sup>、グループ①の動詞の表す事態は、主格に立つ名詞が意図を持って自らその動作を行うというような自動詞的なものである。その主格に立つ名詞句は「+意図」の「+有情」が普通であるが、日本語同様「-有情」の「大学」などのようなものは「(人間の)組織」として考えられ、「+有情」のように機能している。このグループ①に属する動詞はその主格に立つ名詞句が「+有情」& 「+意図」の場合に使われる。

グループ②の動詞の場合、グループ①とはまったく逆の事態と意図性を見せている。このグループに属する動詞は、非意図的な動作の場合に限られている。

(29) J.国の力が衰退 (\* を) している。

K. naraŋi him-i 衰退 (??il) hakois'ta.

(30) J.年をとるにつれ、体が段々老化 (\* を) する。

K. nai-il məkime't'ara mom-i čəmčəm 老化 (\* il) hakois'ta.

(31) J.世界情勢が急変 (\* を) している。

K. 世界情勢-ka 急変 (\* il) hakois'ta.

上記の例文の「衰退、老化、急変」などの動詞は語彙的に非意図的な動作を表しており、主格に立つ名詞は、意味的には動作主ではなく対象物である。つまり、このグルー

プ②に属する動詞が表しているのは自発的な出来事であると考えられる。

このようなことから韓国語にも例文(26-28)のような自動詞構文と(29-31)のような自発構文を表す動詞が存在していると言える。非意図的主語であっても「hata」形が使われていることが確認できる。

### 3-3. グループII:「する」-「hata/t $\phi$ ta」の対応

グループIの検討から日本語の「する」形が自動詞構文、自発構文に使われているのと同じく韓国語にも「hata」形が使われていることが分かったが、次のように日本語の「する」形の自発的表現に韓国語の「hata/t $\phi$ ta」形の両形態が対応しているグループIIの動詞がある。

(32) J.ソウルの人口上昇率が昨年より10%減少した。

K.səul 人口上昇率-i ɕaknyənpota 10% 減少 hajəs'ta/減少 t $\phi$ əs'ta.

(33) J.タイタニック号は大西洋で氷山にぶつかって沈没した。

K.Taitanic 号-nin 大西洋 esə 氷山 epudidhja 沈没 hajəs'ta/沈没 t $\phi$ əs'ta.

(34) J.選挙管理委員会が昨日発足した。

K.選挙管理委員会-ka əce 発足 hajəs'ta/発足 t $\phi$ əs'ta.

(35) J.水蒸気が蒸発する。

K.水蒸気-ka 蒸発 hata/蒸発 t $\phi$ ta.

このグループに属する動詞は、日本語の場合は「する」形ですべて自発的な出来事を表しているが、韓国語では「hata・t $\phi$ ta」形が同時に使われて自発的な出来事を表現している。主格に立つ名詞が意図性を持っていないI-②のグループと同じく自発構文である。

韓国語の場合、以下の例文のように主格に立つ名詞が「+有情」の場合、「hata」形しか使われない動詞もある。

(36=35) J.水蒸気が蒸発する。

K.水蒸気-ka 蒸発 hata/蒸発 t $\phi$ ta.

(37) J.評判の高い女優が蒸発した。

K.評判 i nopin 女優-ka 蒸発 hajəs'ta/\*蒸発 t $\phi$ əs'ta.

(38) J.イエス・クリストは馬小屋で誕生した。

K.jesunim-in makuk'an-esə 誕生 hajəs'ta/\*誕生 t $\phi$ əs'ta.

(39) J.東京にディズニーランドが誕生した。

K.東京-e Disneyland-ka 誕生 hajəs'ta/誕生 t $\phi$ əs'ta.

上記の「蒸発、誕生」のように主格に立つ名詞が「+有情(&「+意図」)」の場合は「hata」形しか使われない。

さらに主格の名詞が人工的なものか非人工的なものかで使い分けられる動詞がある。

(40) J.気温が昨日より2度上昇した。

K. 気温-i əčepota 2度 上昇 hajəs'ta/ \* 上昇 tφəs'ta.

(41) J. 実質賃金が大幅に上昇した。

K. 実質賃金-i kīnpokīro 上昇 hajəs'ta/ 上昇 tφəs'ta.

例文 (40) の人間の関与が完全に排除されるような自然現象の場合は、「hata」形だけが使われるのに対して例文 (41) のような人間の関与のある自発的な出来事の場合は「hata・tφta」形が使われる。同じ動詞であっても主格の名詞の意味特性によって使い分けが行われている。

これらのことから上記の例文の「上昇する、誕生する、蒸発する」などはグループ I にもっとも接近している様子が分かる。つまり、これらの動詞を境に二つのグループは連続性を見せているのである。

このようなグループ II の動詞が表している事態は自発的な出来事であり、その主格に立つ名詞は意図性を持っていないものが一番典型的で、主格の名詞が「+有情 (&「+意図」)」あるいは動詞の表す事態が自然現象である場合は「hata」形しか使われないのである。

このように自発的事態を表すのに韓国語では「hata・tφta」形が使われているが、なぜ同じ出来事を表すのに二つの形態が使われているかという問題が当然予想されるが、これらの問題は次のグループ III とあわせて検討する。

#### 3-4. グループ III : 「する」 - 「\* hata/tφta」の対応

このグループに属する動詞は、日本語の自発を表す「する」形に「tφta」形のみが対応している。

(42) J. A と B はお互い矛盾する。

K. A wa B-nīn səro 矛盾 tφnta/ \* 矛盾 hanta.

(43) J. 彼は雪の中で孤立してしまった。

K. kī-nīn nunsokesə 孤立 tφəbəryəs'ta/ \* 孤立 hajəbəryəs'ta.

(44) J. 彼の体がいきなり麻痺してしまった。

K. kīi mom-i kabčaki 麻痺 tφəbəryəs'ta/ \* 麻痺 hajəbəryəs'ta.

これらの例文が表す事態はすべて自発的なものばかりである。このグループの動詞は自発態を表すのに「tφta」形しか使えないことで、グループ I -②の動詞と表す事態は自発態と同じであって形態が正反対である。

つまり同じ自発態を表しているのに二つの形態が使われていることであるが、先ほども言及したようになぜ同じ事態を表しているのに二つの形態が使われているかが問題として考えられる。これに関しては動詞の表すアスペクトという要因が関与していると思われる。

#### 4. 動詞の表すアスペクト

形態的に典型的な対立をなしているグループ I -②とグループ III に属する動詞の違い

として、それぞれの動詞が表すアスペクト的意味の違いが考えられる。

つまり、グループIIIに属する動詞は自ら表している動作に動きがないものかあるいは動きがあっても瞬間的なものばかりであり<sup>3)</sup>、そのため、これらの動詞は「一ている」形で動作の過程を表す「一ている最中だ」という意味を表すことが出来ない。

(45) J.彼は雪の中で孤立している (\*最中だ)。

K. *kī-nīn nunsokesə* 孤立 *tφəis'ta* (\* *ko is'nīn* 中 *ita*)<sup>4)</sup>。

J.汚職事件が発覚している (\*最中だ)。

K. 汚職事件-*ka* 発覚 *tφəs'ta* (\* *ko is'nīn* 中 *ita*)。

J.船が座礁している (\*最中だ)。

K. *be-ka* 座礁 *tφə'ta* (\* *ko is'nīn* 中 *ita*)。

J.皇太子のお妃候補が内定している (\*最中だ)。

K. 皇太子妃候補-*ka* 内定 *tφə'ta* (\* *ko is'nīn* 中 *ita*)。

このようにグループIIIに属する動詞は「る形」と「ている形」の対立はあるにしても「ている形」で「動きの過程」を表すことは出来ず、専ら主体の「状態の変化」を表すのみである。

これに対してグループI-②に属する動詞は「ている形」で「動きの過程」を表すことが出来る。

(46) J.世界情勢が目まぐるしく激変している最中に、……。

K. 世界情勢-*ka* *əçirəbk'e* 激変 *hakois'nīn* 中 *e*……。

J.原油価額が暴騰している (最中だ)。

K. 原油価額-*i* 暴騰 *hako is' (nīn* 中 *i) ta*。

J.最近ミニスカートが流行している (最中だ)。

K. 最近 *minisīkatī-ka* 流行 *hako is' (nīn* 中 *i) ta*。

このようにグループI-②とIIIの違いは動詞の動きということが関係しており、動きがなくあるいは動きがあっても瞬間的なものすなわち「ている形」で「動きの過程」を表せないものはグループIIIに属し、動きがあって「ている形」で「動きの過程」を表せるものはグループI-②に属するといえる。

(47) J.多くの乗客を乗せた豪華客船が沈没している (最中だ)。

K. *manhīn* 乗客-*īl* *silīn* 豪華客船-*i* 沈没 *ha/沈没 tφkois' (nīn* 中 *i) ta*。

J.部屋の温度が上昇している (最中だ)。

K. *bang* 温度-*ka* 上昇 *ha/上昇 tφkois' (nīn* 中 *i) ta*。

J.地球環境調査委員会が発足している (\*最中だ)。

K. 地球環境調査委員会-*ka* 発足 *tφəs'ta* (\* *kois' (nīn* 中 *i) ta*)。

J.P.K.O法案が成立している (\*最中だ)。

K. P.K.O法案-*i* 成立 *tφəs'ta* (\* *kois' (nīn* 中 *i) ta*)。

グループIIに属する動詞の場合は、「沈没、上昇、緊張」のようなグループIの性質を持っているものと「誕生、発足、成立」のようなグループIIIの性質を持っているものが

混ざってあることから、グループ I と III の中間的な特徴を有していると考えられる。

以上のことから、漢語自動詞の場合、日本語では主格に立つ名詞の意図性に関係なく「する」形で「自動詞構文」と「自発構文」を表しているのに対して、韓国語では主語の意図性によってグループ I-①とグループ I-②、II、III の二つに分けられ、それぞれ「自動詞構文」と「自発構文」を表しており、さらにグループ I-②、II、III に属する動詞は同じ自発という出来事を表しているのにお互い違う形態が使われていることに、動詞の動きの有無あるいは動詞のアスペクトの意味といった要因が関与していることが分かったと思う。

## 5. おわりに

日本語と韓国語の漢語動詞の場合、他動詞は規則的な対応関係（「する-hata」、「される-tǒta」）を見せる一方、自動詞の場合は「hata」形に「tǒta」形が絡み合って多様な対応関係を見せている。韓国語は意図の主語であるから「hata」が使われるのではなく、その中には自動詞構文と自発構文が存在しており、非意図の主語の場合でも「hata」が使われることと同じ事態の表現に二つの形態が使われていること等について、動詞の表す事態と動詞のアスペクトの意味の考察から確認できたと思う。

次の図は以上のことをまとめたものである。

【図 2】

	言語	他動	自動	自発	受動
主格の意図性	日本語	+意図	+意図	-意図	-意図
	韓国語	+意図	+意図	-意図	-意図
形態	日本語	する	する	する	される
	韓国語	hata	hata	hata · tǒta	tǒta

【韓国語自動詞】

	自動	自発			
グループ	I-①	I-②	II		III
アスペクト	±動き ±過程	±動き ±過程	+動き +過程	-動き -過程	-動き -過程

注 1) 韓国語の漢語動詞につく受動の形態に対する一致した見解はまだ見られない。しかし他動詞に付いて受動文を規則的、生産的に生成できることから一応ここでは受動の形態として考えたい。ここでは対応関係に注目しているので受動の形態かどうかという問題は余り意味のないことであると思われるが念のためにお断りしておきたい。

- 日本語においては助詞「を」の挿入の可能・不可能によって自動詞構文か自発構文かの区別が容易であるが、韓国語においては日本語ほどの基準にはならないが一つの基準としては成り立つと思う。
- 田野村 (1988) では、日本語にも自動詞の統語的な区別にこれらの要因が関与していることを論じている。
- 韓国語では「動きの過程」を表す時は「-kois'ta」で、「状態の変化」を表す時には「-'ois'ta」で使い分けている。

[参考文献]

- 生越直樹. 1982.「日本語漢語動詞における能動と受動—朝鮮語 hata 動詞との対照—」  
『日本語教育』48号.
- 門脇誠一. 1989.「日・朝語対照研究—「漢語+する」と「漢語+hada」について—」『北海道東海大学紀要 人文社会科学系2号』.
- 金田一春彦 (編). 1976.『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房.
- 田野村忠温. 1988.「「部屋を掃除する」と「部屋の掃除をする」」『日本語学7-11』明治書院.
- 寺村秀夫. 1982.『日本語のシンタクスと意味 I』くろしお出版.
- 仁田義雄. 1989.「拡大語彙論的統語論」『日本語学の新展開』くろしお出版.
- 李文子. 1979.「朝鮮語の受身と日本語の受身(その一)—「もちぬしの受身」を中心に—」  
『朝鮮学報』91.
- Jacobsen, Wesley M. 1992.『The Transitive Structure of events in Japanese』Tokyo:  
Kurosio Publishers.